

環境調査結果のお知らせ

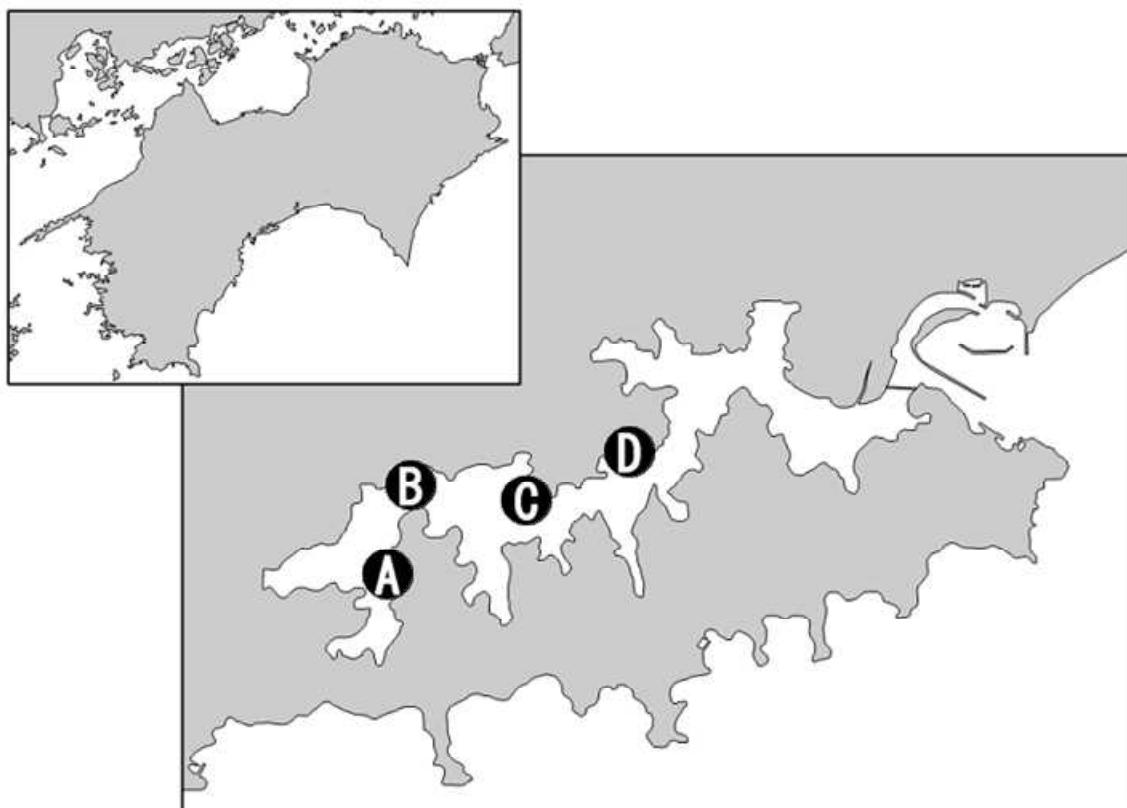
令和6年5月27日11時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

概況

検鏡の結果、魚類に対して有害なシャットネラ属が最高で30 cells/ mL、ディクチオカ属が最高で472 cells/mL、コクロディニウム・ポリクリコイデスが最高で9 cells/mL確認されました。また、麻痺性貝毒原因種であるアレキサンドリウム属が最高で31 cells/mL確認されました。光松の底層が貧酸素状態となっていますので、十分注意してください。

海や養殖魚、貝類の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度	水温	塩分	溶存酸素	シャットネラ	ディクチオカ	コクロディニウム・	アレキサンドリウム
	(m)	(°C)		(mg/L)	属	属	ポリクリコイデス	属
A 鳴無 (3m) 【11:01】	0	24.1	29.0	8.7	1	0	0	0
	2	23.3	30.1	8.5	11	0	0	0
	5	21.4	30.7	5.9	30	472	0	0
	底層 8	21.0	30.9	4.2	22	105	0	0
B 中学校前 (4.2m) 【11:07】	0	24.3	28.9	8.1	13	0	0	0
	2	23.2	30.1	8.6	6	1	0	0
	5	21.9	30.9	7.8	4	88	0	0
	10	20.9	30.9	4.6	11	11	0	0
底層 11.5	20.6	31.0	4.0	0	0	0	0	
C 目ノクソ (2.5m) 【11:15】	0	24.4	29.2	9.0	0	0	0	0
	2	23.9	29.9	9.4	1	0	0	16
	5	21.9	30.9	10.0	1	12	8	18
	10	21.5	31.1	6.8	0	0	0	0
底層 14.5	20.8	31.2	5.3	1	0	0	0	
D 光松 (2m) 【11:25】	0	24.3	29.6	9.8	0	1	0	0
	2	23.5	30.3	13.8	1	0	9	31
	5	22.1	31.0	7.9	0	0	0	0
	10	21.7	31.2	5.3	0	0	0	0
底層 16	20.8	31.2	2.7	0	0	0	0	



A: 鳴無

B: 中学校前

C: 目ノクソ

D: 光松

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレニア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5~8月	6~8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6~8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—	2~4月	5~6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3~12月	4~8月	4~11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクチオカ属)	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6~7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	10,000 cells/mL	8~9月	—	—
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ)	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8~11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキサンドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—	1~4月	3~5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	—	—	2~7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。